



安全衛生

# あれこれ

74

増田労働衛生コンサルタント事務所

所長 増田稔久

## エスカレーターのリスクを探る ↳ 転倒事故に遭遇して

昨年12月、小樽市のスキー場で男児（5歳）の痛ましい死亡事故が発生しました。報道によると、被災者はスキー用のベルト式エスカレーターを利用中、降り口付近で転倒した際にベルトの巻取り口を腕を挟まれ、長時間抜け出せず悲しい事態となりました。当機は異物が巻き込まれた時の安全装置である「自動非常停止装置」と「非常停止ボタン」が設けられていましたが、いずれも機能しませんでした。安全の鉄則「人はミスをし

機械は故障する。多少のミスや故障で人が大怪我をしないように事前対策を講じる」の視点から考えると、安全装置が故障していたのにエスカレーターが運行できたのが不思議です。安全装置が故障した場合に機械が停止する等のフェイルセーフ（※）の機能を有する設計や運行上の管理システムがどうだったのか、悔やまれる問題点です。

さて、この事故の数日前、出張帰りに立ち寄ったある駅の複合施設でのことでした。私は疲れもあって普段は使わないエスカレーターを利用しました。乗ったのは下りです。その時、前にいた若い女性が降り口で転倒しました。よく見ると靴紐が踏段（ステップ）の吸い込み口に挟まれ

ています。エスカレーターは依然として動いており、靴と共に足が吸い込まれ締め付けられたら大変な事態です。私の意識は、ぼんやり状態からアドレナリン放出の緊張状態にギアチェンジされました。彼女は倒れた状態で必死に靴の紐を引っ張っています。私の位置は、彼女の後ろ方7〜8mで下りる途中。その前後周辺には誰もいないようで、助けられるのは私だけでした。すぐ考えたのは、自分の足の踏み板で飛び跳ねて、機械に衝撃を与え安全装置を働

かせ止めるか（そんな機能があるのか確証はありません）、その場合、急停止で他の利用者がいれば転倒するリスクもあるから、「止める！」と大声も出さずか、駆け下り靴を脱がせるか、非常停止ボタンを押すのか、すぐに決めないと……、と決断を迫られました。その時、幸いに紐が外れて彼女は転がりながら脱出しました。ほっとして何もしていないのに酷い疲労感でした。皆さんも靴紐にはお気を付けて下さい。また、この機会にエスカレーターの非常停止ボタンの位置や数を数件調べてみました。ボタンは上下の昇降口の左右2箇所、計4箇所から、上下各1箇所、計2箇所の場合もありました。ボタンの表示はシールが外れ、汚れてよく分からないものもありました。さらにボタンは小さく、急な事態ですと見つけられない可能性もあります。関連情報として、過去のエ



転倒事故とエスカレーター

エスカレーター、靴紐等の写真はイメージです

スカレーターによる死亡事故をWEB検索しました。

- ① 手すりの吸い込み口にジャケットの背中が巻き込まれ、窒息死した
- ② 転倒し、降り口の吸い込み口にストール（マフラー）が巻き込まれ窒息死した等がありました。

今回の経験で、一般のエスカレーターを使用する際の自戒の言葉を私なりにまとめてみました。「吸い込み口の機械リスクは強力であることを忘れない」「服装を整える」「歩くな、走るな、手すりを使う」「ながらスマホはしない」最後に「酔っているときはエレベーターか階段を使う」です。